

## 病害虫発生予察特殊報 第1号

病 名：トルコギキョウ斑点病  
病 原 菌：*Pseudocercospora eustomatis* (Peck) U. Braun  
作 物 名：トルコギキョウ

### 1 発生確認経過

令和2年8月、県北部のトルコギキョウ栽培施設において、灰色～黒色のすす状円形病斑が下位葉の表裏に多数確認された（図1）。

県野菜花き試験場で病原菌の分離、病原性確認および分離菌の遺伝子解析を行ったところ、トルコギキョウ斑点病であることが確認された。

本病は平成20年に福岡県で初確認され、令和3年5月20日現在、21県で確認されている。

### 2 病徴及び被害

(1) 発生初期では、下位葉に5～10mmほどの退緑斑紋がうっすらと確認される程度であるが、後に葉の表裏に灰色～黒色のすす状の病斑（図1）を形成する。病斑上には、小黒点（分生子座）が多数形成され、顕微鏡で観察すると分生子（図2）の形成が確認される。病斑は下位葉を中心に発生するが、まん延すると上位葉へと進展する。

(2) 本病は、盛夏を除き、ほぼ年間を通して発生する。特に春から秋の多湿条件下で多発する。生態や伝染環についての詳細は不明であるが、育苗中及び本ぼで発生し、病斑上に形成される分生子により伝染する。

(3) 現在確認されている宿主植物は、トルコギキョウのみである。



図1 葉に形成されたすす状病斑と現地施設における被害状況  
(野菜花き試験場 提供)

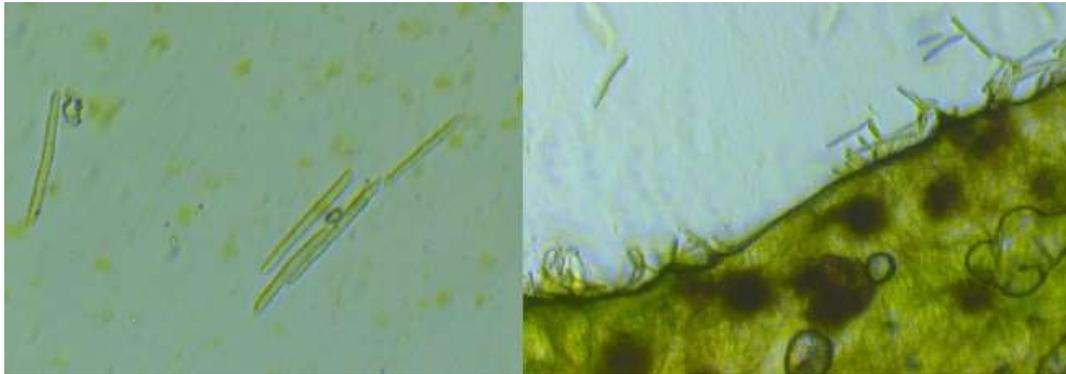


図2 分離菌の形態（病斑上の分生子） （野菜花き試験場 提供）

### 3 防除対策

- （1）多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の換気を十分に行い、除湿を図る。
- （2）発病葉は見つけ次第速やかに除去し、登録薬剤（表1）により防除を行う。
- （3）罹病株の残渣は伝染源となるため、ほ場外で焼却又は埋却処分する。

連絡先 長野県病害虫防除所  
TEL：026-248-6471（直通）  
FAX：026-248-6473  
E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp

表1 トルコギキョウ斑点病に使用できる殺菌剤一覧（JPP-NET 2021年6月1日現在）

作用機構分類 (FRACコード)	作物名称	適用 病虫害 名称	殺菌剤名	使用 方法 名称	使用時期	本剤の 使用回数	希釈倍数 ・使用量	散布液量	
1	トルコギキョウ	斑点病	トップジンM水和剤	散布	-	5回以内	1500倍	100～300リットル/10a	
7			パレード20フロアブル			発病初期	3回以内		2000～4000倍
11			ファンタジスタ顆粒水和剤				5回以内		3000倍
11			メジャーフロアブル				3回以内		2000倍
19			ポリオキシンAL水溶剤			8回以内	2500倍		
M5	花き類・観葉植物 (ばら、きく、チューリップ、ゆり、りんどうを除く)		ダコニール1000		-	6回以内	1000倍		

※1 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意する。特に初めて使用する場合は、事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

※2 ダコニール1000は、花卉に薬液が付着すると漂白・退色などによる斑点を生じる場合や収穫間際の散布により汚れを生じるおそれがあるので、着色期以降の散布は避ける。